毎日新聞 （第3種郵便物認可）

保育園 クーラーどうする

保育園を風通しや日当たりに配慮した構造に改修し、夏でもクーラーなしで過ごせるように武蔵野市が昨夏始めた「『涼』環境創出」事業。今夏は猛暑で室内温度が30度を超す日が続出したため、保護者からは「クーラーとの併用も考えてほしい」との声も出ている。しかし、市保育課は「今年並みの暑さなら、水遊びや着替えなど保育上のケアで対応できる」と見直しに応じていない。

室温低下効果あったが

武蔵野市の「涼」環境創出事業

猛暑に"お手上げ"？

保護者側 評価はするが併用も必要

市保育課 水遊びや着替えで対応を

同課によると、涼環境のモデル事業は03年度、公立保育園9園のうち南保育園でスタートした。0～2歳児は「体温調節機能が未発達」として、同園2階の3～5歳児の部屋に計約3000万円の改修費用をかけて換気口や屋根散水施設、日よけなどを新設した。

その結果、02年に比べ7月は2・7度、8月は0・4度それぞれ室温が下がったため、「一定の効果が得られた」として今年度は南保育園に加え東、境南両保育園に導入した。

ところが今夏は猛暑がたたり、南保育園の室内温度は7、8月のほぼ連日、市が「警戒ゾーン」とする34度前後に。市は"緊急避難"として、暑い日はクーラーがある2階ホールを使うよう指導したが、保護者の1人は「約60人の園児がホール（約80平方メートル）に詰め込まれ、保育環境が悪化した」と語る。

同園父母会が調査した結果、ホールへの避難は7月だけで13日に上ったほか、光化学スモッグの注意報が出ると窓も開けられないため、3～5歳児の部屋は「蒸し風呂状態」になったという。

父母会が8月に全86世帯を対象に実施したアンケート（回答率86%）では、保育中や帰宅後に園児が軽度の脱水症状などの体調不良を訴えたケースが3割に上った。5割は涼環境を評価したが、8割は「3～5歳児の部屋もクーラーが必要」と回答するなど、両者の併用論が目立った。

市は、近く有識者らによる検討委員会で今年度の効果を評価する。【夫彰子】